

1人1台端末の活用による実践事例（準ずる課程・持ち帰り時の授業保障）

学校名	倉敷まきび支援学校	実践者名	木村 久美
実践場面 (教科)	家庭科		
単元・題材名	健康と食生活		
学習目標・ねらい	自分の食事を振り返り、具体的な改善策を考えよう。		
対象の児童生徒の 実態	高等部職業コース(就労による社会参加を目指す軽度知的障害の生徒)2年生		
活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する			
新型コロナウイルス対応で家族の発熱のため欠席した生徒の学力保障のため、自宅待機の生徒と教室とを Meet で繋ぎ、遠隔授業を行った。 ・使用アプリ Google Meet、Google Classroom ・方法 学校：授業で配布するプリントの PDF ファイルを Classroom で生徒に配布 家庭：学校から持ち帰った iPad の meet を使って授業の様子を見ながら、自分のノートに書き写し、課題を行い、できた課題はそのノートを撮影して Classroom 経由で提出 学校：提出された課題を見てフィードバックを行った。			
学習内容 インターネットサイト「食育の時間+」の“ボナとペティの栄養バランスチェッカー”を使って、自分が普段選択する食事の栄養バランスを調べた。 このサイトのよい所は直感的操作ができること、結果が数値に加えグラフで表示され見た目にわかりやすいこと、過不足について具体的なアドバイスがあること、また、料理が主食、主菜等に分類されており、どのような料理が主菜や副菜になるのかがわかりやすいことにある。 (この機能は、次時以降の1日の食事の献立作りにも有効)。			
			
生徒の様子 食事をどのように変更すればバランスの良い食事になるか、具体的に考えることができていた。			
例 ・ビタミン B2 が足りないので納豆や乳製品を摂るようにしたい。 ・脂質やタンパク質が多かったので、揚げ物を魚に変更した。			
自分の食事改善をした後は、クラスで誰が一番栄養バランスの良い献立を考えることができるかというゲーム性を持たせた内容にすることで、楽しんで活動に参加でき、バランスの良い食事をする為どの様な料理を選択すればよいか試行錯誤することができた。			
活用のポイント・改善策等			
・ 検索エンジンから各自でこのサイトを出そうとすると、開くまでに時間がかかることが予想されたためこのサイトの URL を Classroom で配布した。よってすぐにサイトを開くことができ、活動の時間を長く確保することができた。 ・ アプリのダウンロードの必要がないので、授業外での活用も期待できる。 ・ T2 がカメラ操作をして、Meet の画角をより適切な状態にすると共に、該当生徒のリアクションをフォローしたり T1 につないだりすることでより積極的に学習をすすめることができた。			